

4.6 地方ブロック毎の特徴

鳥類は、地方に固有の種や亜種もいますが、一般的には高い移動能力を持ち、季節によって大きく移動する渡りを行うことから地方ブロック毎の特徴は必ずしも明確ではありません。しかし、開発や環境破壊などの人間活動の影響が広範囲の鳥類相に及ぶこともあります。また、地球温暖化などの地球規模の影響により、将来的に日本の鳥類相全体が変化する可能性も考えられます。ここでは、地方ブロック単位でみられる変化の一例として、北海道でのカワウの確認状況を整理しました。

【カワウの北海道での確認状況】

(鳥類調査)

・ カワウが北海道で分布を拡大

1980年代以降、全国各地で分布を拡大し内水面漁業に食害を与えているカワウの北海道での確認状況を整理しました。

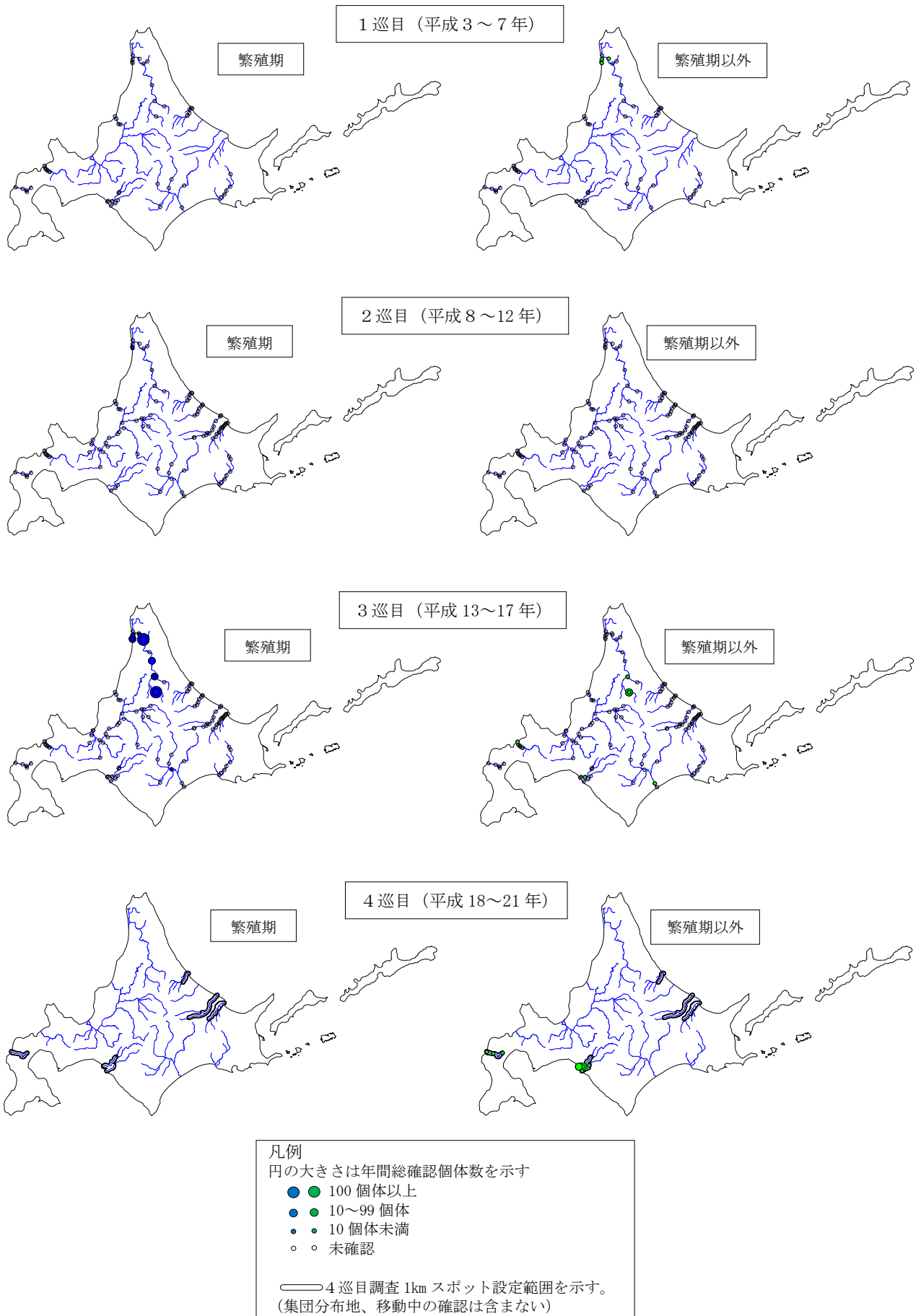
カワウは、かつては北海道ではほとんどみられない鳥でしたが、3巡目以降（平成3年以降）になると道内の多くの河川で確認されるようになり、特に天塩川や十勝川では繁殖期にも確認され、北海道でも繁殖しながら分布を拡大していることが確認できました。

(資料掲載：4-37～39 ページ)

カワウが急激に減少した1970年代以前の生息状況については、アンケートや文献調査により本州以南の全国各地に広く分布していたと推測されていますが、北海道では確実な証拠（はく製や写真など）のある記録はなく、カワウは北海道ではほとんどみられなかった鳥と考えられています。しかし、1980年代以降になるとカワウの分布が全国的に拡大し北海道でもみられるようになり、2001年（平成13年）には繁殖も確認されるようになりました。

河川水辺の国勢調査では、1巡目（平成3～7年）、2巡目（平成8～12年）には天塩川の河口や下流の調査地区で確認されたただけでしたが、3巡目（平成13～17年）には、天塩川のほかに石狩川、尻別川、鶴川、十勝川で確認されるようになりました。4巡目調査はまだ途中ですが、網走川、後志利別川、沙流川でも確認されるようになりました^{注)}。繁殖期、繁殖期以外での確認状況をみると、天塩川、十勝川では繁殖期にも確認されていることから繁殖しながら分布を拡大していると考えられます。カワウが北海道で分布を拡大している理由については明らかにはなっていません。

注)集団分布地、移動中の確認を含む。



カワウの北海道における分布の状況